

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300641		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームすごう		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1		
自己評価作成日	平成28年7月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・環境に恵まれ敷地も広く、安全に前庭の散歩を楽しむことができる。 ・母屋に和室を設けており、居室と自由に行き来ができ、自宅にのような雰囲気味わえる。 行事も行うことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は二名とも准看護師の資格を持ち、また、各棟に看護職員が配置され、利用者は普段の体調管理や急変時の対応に不安のない生活を送ることができる。 また、食事は栄養のバランスを考慮した献立を基に、調理方法に工夫がなされており、利用者はおいしさを実感しながら、楽しいひと時を過ごしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員で作成し、日々のサービスに反映されているか、申し送り時に確認している。	ホーム独自の理念を作成し、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。職員は、毎朝申し送り時にB棟の詰所前に集まって理念を唱和し、確認・共有を図りながら、日々のサービス提供に反映させるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。ホームの行事を通し、交流を図っている。	町内会に加入し、町全体の行事にはできる限り参加するように努めている。また、ホームの広い前庭を使つての夏祭り行事の際は、回覧板でお知らせし、今年は同一法人の経営する他の2グループホームと合同で実施して、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、地域の認知症ケアの普及活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの情報や報告等に対して意見をいただいている他、自己評価、外部評価の結果を報告している。	運営推進会議は偶数月の20日頃を目安に、会議の会長が出席できる日の午後に開催し、メンバーの出席率も良い。会議では毎回、利用状況や行事、利用者の生活状況等、ホームの現状を報告している他、自己評価及び外部評価結果や事故のあった場合等には、その内容をその都度報告し、意見等をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市町村職員、地域包括支援センター職員に出席いただいて、ホームの実情等を報告している。	運営推進会議には町の介護保険係と地域包括支援センターのどちらかの職員が出席し、意見や助言、その時々に応じた情報提供をしていただいている。また、町役場には日頃から課題解決等のために相談する等、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やホーム内の勉強会において職員の理解を促し、拘束しないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、研修への参加等を通じて、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。ベットのセンサーや柵、車椅子のベルト等、やむを得ず身体拘束を行う場合には家族から同意を得ると共に、その理由、方法等について記録を残すこととしている。居室の施錠はしておらず、玄関は最小限の施錠としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し、虐待に対する理解を深めている。また、職員がお互いに気づいたことを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の協力を得て内部研修を行い、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームの方針や対応等を詳しく説明している。利用料の改正等はその都度説明し、同意をいただいている。契約解約時にも、利用者が不安にならないよう配慮して、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、意見・要望を言えることを説明している。家族の面会時に、遠慮なく何でも話せる雰囲気づくりに努めている。	家族には月1回、料金の支払いのためにホームを訪れていただき、その際に苦情や要望等を出していただくよう働きかけている。また、家族には運営推進会議のメンバーになっていただき、意見等を外部に話せる機会を設けている他、不定期ではあるものの、ホームの広報誌を発行して送付し、その中で、担当者から利用者一人ひとりの様子等を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議にて職員から意見が出され、それを運営に反映できるようにしている。	月1回、全体での職員会議があり、利用者の受け入れ等の決定事項について、職員の意見を聞く機会にもなっている。また、ユニット毎のカンファレンスも行い、職員から出された意見等を反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は、労働基準法に基づく就業規則により遵守されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、個々の経験に応じた研修を受講して、伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と2ヶ月に1回、意見交換会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談では、本人の心身の状態や思い、ニーズを理解して受け止め、安心感を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関する相談があった時には、家族と本人から希望・ニーズを伺い、ホームとして対応ができるか、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要であるかを見極め、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合うよう、一つの家族のような感覚で接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を通して利用者の思いを共有し、共に支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前から関わりのある友人との関係も、できる限り継続できるように支援している。	アセスメントや家族から得られる情報を基本にしつつ、日々のコミュニケーションの中から、馴染みの人や場所を把握しており、友人・知人への電話の取り次ぎや、利用者のこだわりの店に出かける等して、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立することがないように利用者同士の関係性を把握し、日々の生活の中で、お互いが支え合っていけるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる場合は、これまでの生活の状況等を情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の行動等から、本人の思いをできるだけ把握するように努めている。	アセスメントを踏まえつつ、日々の会話や見守りの中で、利用者のやりたいことや願い、要望等を把握しており、できる限り対応できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報等でこれまでの生活歴や個性等を把握して、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で個々の生活リズムを把握し、体調の変化にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、全職員でカンファレンスを行い、作成している。また、本人の思いのみならず、家族の意向も反映するように努めている。	全職員でカンファレンスを行い、全職員の意見や気づきを基に十分に話し合いの上、介護計画を作成している。実施期間終了時には見直しを行い、計画で掲げた「目標」に対し、達成度を評価している。また、病院から退院後の体調変化時等、実施期間に関わらず、必ず見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画は、日常の様子や本人の言葉等を記録し、職員間で情報を共有した上で作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や外出支援等は、利用者のニーズに柔軟に対応して実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事等には、地域の民生委員やボランティアからの協力をいただいて実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を主治医として、継続して受診できる環境を整えている。受診は職員が同行し、結果等は家族に報告している。	利用者のこれまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。また、受診についてはホーム職員が対応し、結果を家族に伝達して、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各棟に看護職員がおり、健康管理に努めている。また、夜間における緊急時の対応方法も整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院に向けて関係者と話し合いをしている。また、入院中は状況を確認しながら、職員が顔を出すように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としてターミナルケアは実施していないことを、入所契約時に説明している。	ターミナルケアは実施していない方針を、利用契約時に説明し、了解を得ている。急変時における医療上の必要な対応については、利用契約書に約定し、速やかな対応をすることで合意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の研修を受講している。また、緊急時マニュアルに従って対応できるように、日々、確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署に連絡・報告を行った上で、年2回の避難訓練を実施している他、災害時に備え、3日程度の食料・飲料水を確保している。	年2回、1回は日中、1回は夜間を想定した訓練を実施しており、消防署への通報訓練を含めた連絡報告、消防団の理解・協力への働きかけ、町会長や民生委員の参加・協力を得て、訓練に取り組んでいる。また、災害発生時に備えて、寒さを凌げるストーブや布団類も用意されている他、レトルト食品等で賞味期限が切れそうなものについては、日常の食材として活用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、採用時に個人情報の守秘義務に関しての誓約書の提出を求めている。排泄の失敗等にはさりげなく声がけをして、個室にて対応するようにしている。	利用者の言動を否定したり、拒否したりしないように努めている。声がけがが大き過ぎた場合はその都度注意し、また、親しくなり過ぎるのもいけないので、ホーム全体で確認し、注意している。個人情報の利用については、必要最小限の範囲内での利用を書面で明記し、同意を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に合わせ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが決まっている時以外は、状況を見ながら、できるだけ本人の希望に沿えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを大切にして、実現できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った献立を心がけている。できる範囲で手伝いをお願いしている。	献立は栄養士のアドバイスを受け、利用者の好みや苦手なもの、栄養バランス等を考慮して作成しており、調理にも工夫が見られる。現在、殆どの利用者が食事に関して自立しており、調理の下ごしらえ等、できる範囲でお手伝いをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の指導を受けている。摂取カロリーや水分量を把握し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、義歯の洗浄や消毒、管理等の対応をしている他、食後のうがいを声かけにて促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗時にはプライバシーに配慮し、居室で着替えをしていただいている。	全介助の利用者でも観察していると排泄時のサインを出してくれるので、それを見逃さずに察知し、支援している。おむつやパットの使用については、常に見直しをするように努めており、排泄介助時は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や軽い運動を促している他、必要に応じて下剤を使用する等、個々に応じた対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴する曜日は決められているが、個々の入浴習慣を把握して、楽しんで入浴できるように支援している。	入浴は週2回、それぞれのユニットの浴槽を利用して行っており、曜日により男女の順番を替えたり、決められた日以外でも入浴できるよう、利用者の意向を取り入れている。また、寒くなってくると何度も湯船に浸かる傾向になるので、浸かり過ぎには声がけをして、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医より眠剤が処方されている方もいるが、日中はできるだけ体を動かしていただき、良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後に本人へ手渡しして服用していただき、職員が確認をしている。処方内容変更時には申し送り時に職員間で共有し、症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には得意分野で役割を持ってもらっている。趣味を楽しめるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は前庭の散歩を日課にしている他、時にはドライブも取り入れて、気分転換を図っている。	道の駅等へのドライブを楽しんだり、利用者の希望を取り入れて、遠出の機会を作るようにしている他、ホーム側からの提案により、その時その時のサプライズ外出も多い。また、桜祭り等の大きな行事の際は、家族にも参加・協力を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機よりジュースを購入すること等ができるよう、少額の金銭は所持していただいている。預り金は会計担当者が個々の出納帳に記入し、定期的に家族に内容を確認していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には番号を押す支援を行っている他、手紙を出したい方には切手を貼り、投函する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気が感じられるように心がけ、飾り付けはシンプルにしている。	ホールからは岩木山が望まれ、四季折々の景色を楽しめる他、ホーム内には職員と利用者が一緒に作った折り紙を飾ったり、季節感のある塗り絵や行事の時の写真を貼る等、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、利用者が季節を感じることができるように工夫している。また、冬場の湿度管理については様々な試みをしながら、適切な空調を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や外の景色が見えるように廊下の途中にソファを置く等、静かに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込む方、シンプルが好みの方等、それぞれの好みに合わせ居室づくりを行っている。	愛用していた物や馴染みの物等を持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごせる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて目印を付け、混乱のないようにしている。		